

2024 年度

ミラークよこすか

事業報告

社会福祉法人 電機神奈川福祉センター



目次

1. 事業の概要

- (1) 目的..... 3p
- (2) 法人設立と施設設置の経緯..... 3p
- (3) 施設概要..... 3p
- (4) 2024 年度事業目標と年度末事業結果 5p

2. 2024 年度事業報告

(1) 就労移行支援事業

- ① 利用者の状況 7p
- ② 支援プログラム 11p
- ③ 就労支援..... 19p

(2) 就労定着支援事業 21p

3. 2025 年度事業目標 23p

1. 事業の概要

(1) 目的

障害を持つ人が社会自立できるよう支援すること。

(2) 法人設立と施設設置の経緯

1972年、電機連合神奈川地方協議会（以下、地協と呼ぶ。）は、第20回定期大会において、労働組合としては全国に先駆けて障がい福祉活動を開始しました。地協は、神奈川県内の電機・電子・情報機器関連産業に働く組合員で組織された産業別労働組合です（2015年3月末現在109単組・支部、組合員数75,736人）。障害をもつ人も「ともに学び、遊び、育ち、働き暮らせる社会」を目指した障がい福祉活動は、国際障害者年の理念でもある「ともに生きる社会づくり」への大きな潮流につながりました。

この活動を20年にわたり続けてきた間に、障害をもつ子どもたちの育ち学びあう場は広がり、選択できるようになってきました。しかし、学校卒業後の進路は依然として厳しい状況が続いていました。そこで、地協の障害福祉活動のさらなる展開として、社会福祉法人の設立を目指し、1991年に「電機神奈川福祉センター設立準備委員会」を設置し、1995年3月に神奈川県より社会福祉法人の認可を受けるに至りました。

法人設立前の1992年には「横浜南部就労援助センター」が事業を開始し、法人設立後の1996年には横浜市に「通所授産施設 ぽこ・あ・ぽこ」が事業を開業しました。その後、川崎地域、湘南地域でも事業を展開し、障害者の社会自立や一般就労を中心に支援を行ってきました。

2013年に新たな事業展開を目指し、調査の結果、横須賀地域での障害福祉サービス事業所開設に向けた準備を開始します。2014年10月に設置した「横須賀新事業所開設準備室」を経て、2015年1月1日に「ミラークよこすか」は事業を開始しました。

(3) 施設概要

【事業所指定】（2015年1月より）

- 法的根拠：障害者総合支援法
- 事業指定者：横須賀市長
- 事業所番号（サービス種類）：1411901760 [就労移行支援事業・就労定着支援事業]
2017年4月1日：自立訓練事業（生活訓練）廃止、就労移行支援事業増員
2018年7月1日：就労定着支援事業開始
- 指定日・事業開始日：2015年1月1日

【利用対象者】

- 原則として65歳未満の知的障害者・精神障害者
- 定員：就労移行支援事業20名（2017年4月1日変更）

所在地	横須賀市大滝町 2-15-1 横須賀東相ビル 6 階		
交通機関	京浜急行線 横須賀中央駅より徒歩 4 分		
Tel	046-821-3450	Fax	046-887-0480
開設年月日	2015 年 1 月 1 日		
建物構造	鉄筋コンクリート造 9 階建（横須賀東相ビル内）		
面積	専用部分 219.17 m ²		
設備内容 () 内共用部	多目的室・訓練室 1・訓練室 2・相談室 2・事務室・男性ロッカー・女性ロッカー 倉庫・(男性トイレ・女性トイレ・給湯室)		

(4) 2024 年度事業目標と年度末事業結果

2024 年度目標	2024 年度事業報告
重点目標	
<p>① メンタル不調や引きこもり歴のある方等、さまざまなニーズに応えられるよう柔軟なサービス提供を継続していくとともに、利用開始から就職までのイメージをしやすい仕組みをつくります。</p> <p>② 就労者の安定的な輩出を目指すとともに、新規利用者を確保し、経営の適正化を図ります。</p>	<p>① 定期面談のほか必要に応じて個別の面談を行い、段階的な利用スケジュールの調整等、安定通所へのアプローチを行いました。就職までの道のりをより具体的にイメージできる「就活講座」を定期開催プログラムとして開始しました。</p> <p>② 10名の就労者を輩出し、目標を達成しました。新規利用者は8名と概ね平均的な人数となりましたが、昨年度からの利用者数の影響が続いており、経営状況の改善には至っていません。</p>
1. 就労移行支援事業(20名定員)	
<p>① 年間10名の就労者を輩出します。(上半期:7名、下半期:3名)</p> <p>② 1日あたりの平均利用者数15名以上を目指します。</p> <p>③ 通所に不安を抱えている方のニーズを整理し、対応するための方法を見直します。</p> <p>④ 10名以上の利用者に施設外実習・施設外作業の機会を提供します。</p> <p>⑤ 横須賀、三浦、横浜市南部地域での就労先開拓に注力し、通勤時間に不安を持つ方の就労実現を目指します。</p> <p>⑥ 企業見学や体験実習先を開拓し、利用者の参加機会の増加を目指します。</p>	<p>① 就労者は上半期7名、下半期3名と目標に達しました。障害特性上、就労の条件が限定的な方や、これまで就労実績が少なかった事務業務で就職される方がいました。</p> <p>② 1日当たりの平均利用者数は12.7名でした。平均利用率は89%と例年より増加傾向にありますが、利用者数の少なさが未達成の原因です。</p> <p>③ 不安感が強い方には通常利用時間終了後等に個別面談を設定し、負荷の少ない利用時間から徐々に時間を増やす等の調整を行いました。また、昨年度から計画的に開催している外部講師による講座を4回開催しました。</p> <p>④ 施設外実習に12名、施設外作業に9名が参加されました。</p> <p>⑤ 地域内のこれまで関りのない事業所を含め8社に就労のアプローチを行いました。結果、7名が就職しました。</p> <p>⑥ 全利用者対象の企業見学会を4回開催しました。体験実習は3事業所にお受けいただきました。</p>
2. 就労定着支援事業	
<p>① 就労定着率90%以上(基本報酬算定基準による)を目指します。</p> <p>② 利用者に対するサービス提供実施率90%以上を目指します。</p> <p>③ 就労者向けイベントを定期的で開催するとともに、支援対象者の増加に対応できるよう開催方法を見直します。</p> <p>④ 関係機関との連携を強化し、個別の支援における協力関係構築を図ります。</p>	<p>① 年度末時点の就労定着率は95.2%でした。</p> <p>② 年間のサービス提供率は98.3%でした。</p> <p>③ 年間3回のイベントを外部の貸会場で開催しました。対象者の内、約半数の延べ89名にご参加いただきました。</p> <p>④ 相談支援事業所や基幹相談支援センター、就労援助センターなどと連携しながら支援を行っているものの、横須賀市内在住者は計画相談事業者がいないことがほとんどであるため、ケースによる差が大きくなっています。</p>

3. 運営全体	
<ul style="list-style-type: none"> ① 広報誌を定期的に発行し、地域の関係機関等へ情報発信を行います。 ② リーフレットのマイナーチェンジを行い、実情に沿った情報提供を心がけ、リーフレット以外にも新たな広報の手段を活用します。 ③ 日々のミーティングで日常的な振り返りや職員間の情報共有を行うとともに、就労移行支援事業利用者全員に対して毎月ケース会議を実施し、目標達成状況の評価や支援の方向性について検討を行います。 ④ 年間 20 名以上の体験利用者を受け入れます。 ⑤ 事業所内における災害ゼロを目指し、職員・利用者ともに安全に対する意識向上に努めます。 ⑥ 部署内研修を実施するとともに、キャリアパス対応研修を始めとする外部研修を活用し、職員個々のスキルアップを図ります。 ⑦ 人材育成のため、定期的にジョブローテーションを行います。 ⑧ 見学対応の方法や職員の接客スキルを向上し、利用前実習者の増加につなげられるよう適切にニーズを汲み取ります。また、利用を検討している方や利用を開始して間もない方が過ごしやすい事業所環境を作ります。 ⑨ 令和 7 年度に受審を予定している福祉サービス第三者評価に向けて、準備を進めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 年間で 3 回(7 月、10 月、2 月)広報誌を発行し、地域の相談系事業所を中心に事業所情報の発信ツールとして活用しました。 ② リーフレットのマイナーチェンジを行い、実績等を最新のものに更新しました。新たな広報ツールのパンフレット作成に着手し、次年度に完成予定です。 ③ 日々の共有漏れがないよう、毎日のミーティングで全利用者の確認を行いました。また、毎月のケース会議は継続して行っており、個別支援計画の進捗状況や将来の方針について確認する機会としています。 ④ 18 名の体験利用者を受け入れ、内、8 名が在学中の方でした。 ⑤ 情報漏洩の事故が 1 件発生しました。 ⑥ 事業所の状況に応じた部署内研修を 10 回開催し、8 件の外部研修に参加しました。 ⑦ 施設内支援と施設外での就労支援の担当職員のジョブローテーションを行い、支援の幅を広げました。 ⑧ 見学者のニーズに合わせた対応を行える職員が増えました。また、利用を検討している方には体験中からこまめに聞き取りを行い、要望に沿えるように職員全体で関わっています。 ⑨ 第三者評価受審に向け、年度内に既に実施した他事業所へ情報収集を行いました。受審に向けた具体的な動きは次年度に行う予定です。

2. 2024 年度事業報告

(1) 就労移行支援事業

利用者の状況

2024 年度は新たに 8 名の方が利用を開始し、1 年を通して合計 22 名の方がご利用されました。就職者は 10 名と前年度の 5 名を大きく上回りました。様々な方にご利用いただくなか、トレーニングを経て就職以外の選択をされる方も一定数おられますが、2024 年度は前年度よりも少ない人数となりました。

表 1.月別利用者動向 就労移行支援事業

(単位：名)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規利用		5 (0)	0 (1)	1 (3)	0 (0)	1 (0)	1 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (2)	0 (1)	8 (10)
退 所	就労	1 (1)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (0)	3 (1)	1 (1)	0 (2)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	10 (5)
	その他	0 (0)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (3)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	2 (7)
利用者数		19 (16)	18 (16)	16 (18)	16 (18)	17 (18)	15 (18)	13 (15)	12 (14)	11 (12)	11 (12)	11 (14)	10 (15)	

() 内は前年度実績
利用者数：月内の利用契約者数

◆ 利用される方の年齢層について

新たにミラークよこすかを利用される方が比較的多いのが年度初めであり、その多くが 3 月に高等学校等を卒業した 10 代の方が中心です。年度途中に利用を開始される方は、離職し再就職を目指す方や、しばらく働くことから遠ざかっていた方など、事情は様々で年齢層も幅広くなります。全体的に見ると、ご利用される方の年齢層は 10 代、20 代が全体の約 7 割、次いで 30 代が多くなっています。40 代以上のご利用人数は年度により異なりますが、2024 年度は非常に少ない年度となりました。

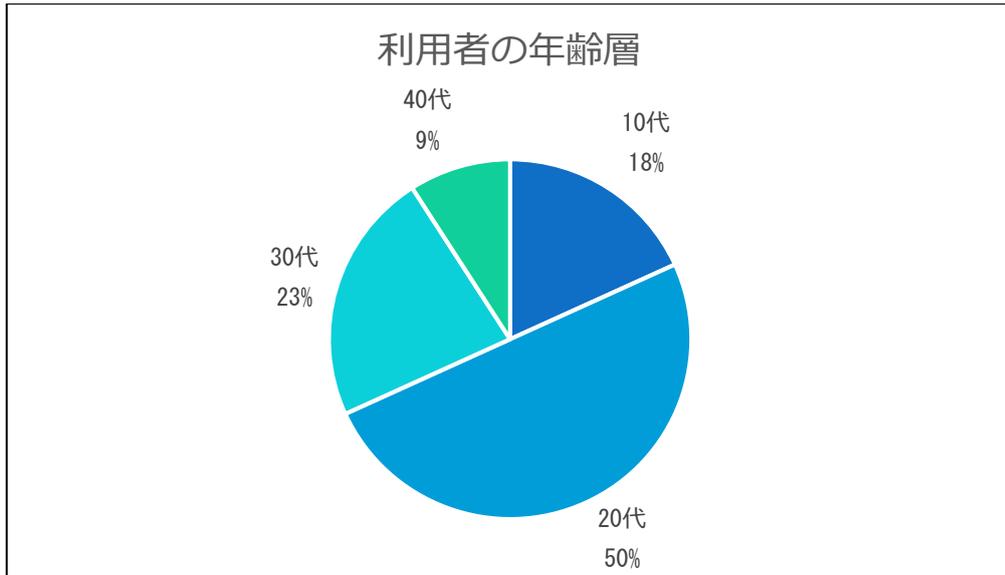


図 1.利用者の年齢層（2024 年度中に利用実績のあった方）

◆ 利用される方の障害者手帳の種別について

ミラークよこすかは障害種別による利用の制限は行っておらず、事業所の環境や支援プログラムが有効と考えられる方には障害種別を問わずご利用いただいています。

2024 年度の利用者の障害者手帳の種別は療育手帳(知的障害)が最も多く、全体の約半数強、次いで精神障害者保健福祉手帳が 36%、身体障害者手帳が 8%となっています。障害種別は時期や年度により変化しますので、ニーズに合わせて幅広くご利用いただけるよう支援プログラムの改定などを適宜行っています。

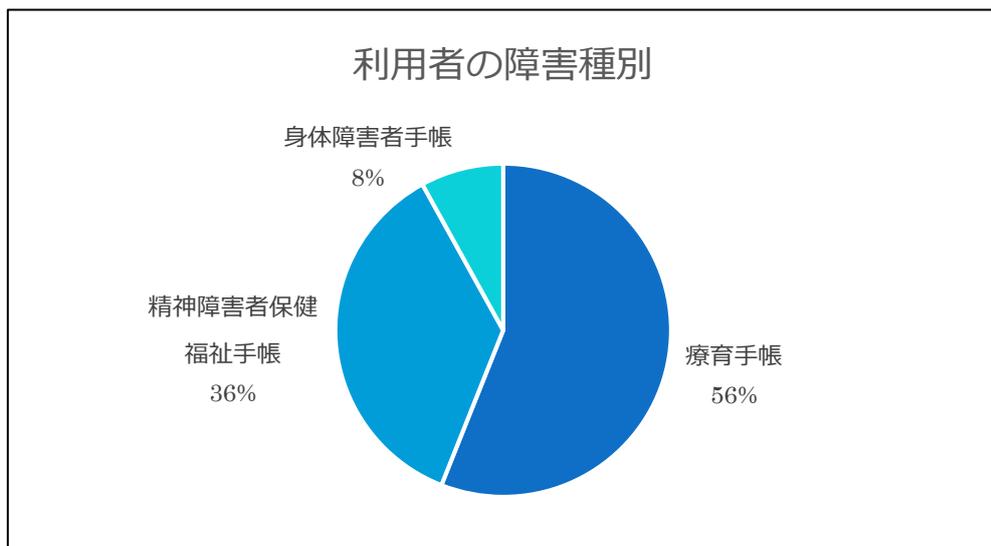


図 2.利用者障害種別（2024 年度中に利用実績のあった方）

◆ 利用される方の居住地等について

ミラークよこすかは京浜急行線の横須賀中央駅から徒歩 5 分程度の立地です。また、横須賀市内のバスは、横須賀中央駅前を經由し、各所に路線が引かれていることが多いため、バスを利用しての通所も比較的容易になっています。市内の交通機関の内、JR 横須賀線については、最も近い横須賀駅まで徒歩 20 分程度と少し距離があるため、通所に利用される方は多くありません。

利用者の居住地は、事業所のある横須賀市と横浜市金沢区がそれぞれ約 4 割、次いで横浜市磯子区が 15%となり、逗子市と葉山町となっています。2024 年度に利用された方の半数が横浜市内にお住いの方でした。ほとんどの方が京浜急行沿線の近隣からご利用されており、逗子市や鎌倉市などの JR 横須賀線沿線の市も距離的には近いですが、ご利用される方は多くありません。

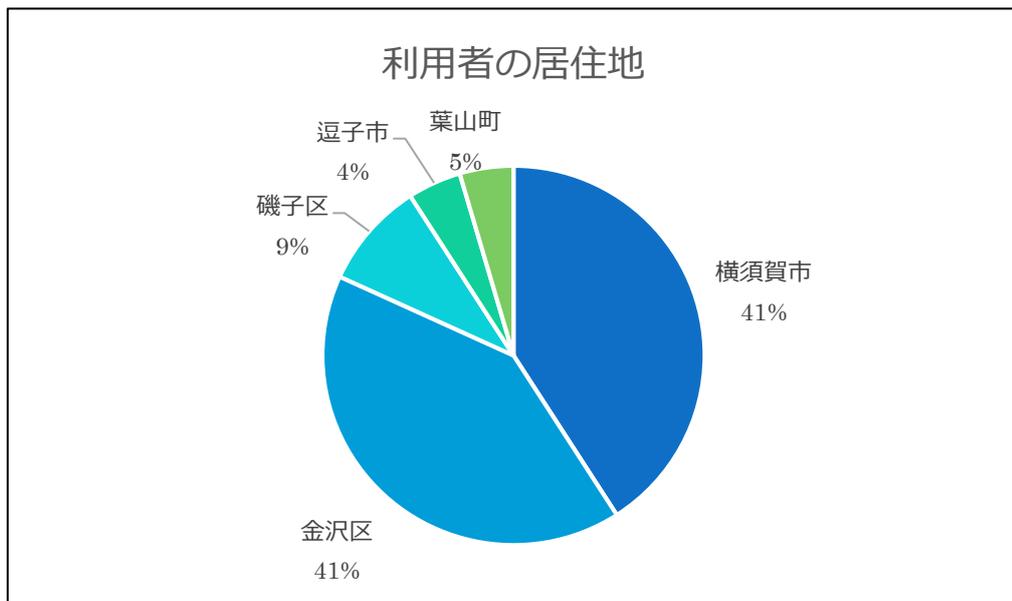


図 3.利用者の居住地（2024 年度中に利用実績のあった方）

■ 就労アセスメント

就労継続支援事業 B 型の利用希望者に対して就労移行支援事業所が実施する就労アセスメントを 2015 年度より実施しています。2024 年度は 6 名の就労アセスメントを受け入れました。就労アセスメントは、就労の可能性を評価することを目的に一定期間、利用契約を締結し行っています。

表 2 . 就労アセスメントの実施状況

依頼元	人数	居住地	人数
行政機関	4 名	横須賀市	6 名
特別支援学校	2 名		

支援プログラム

ミラークよこすかの開所時間は、9 時～15 時で、利用されるご本人の状況に応じて利用時間を決定しています。利用時間内は 4 つのコマに分かれており、それぞれのコマの間に休憩時間を設けています。

<ミラークよこすか週間スケジュール>

	月	火	水	木	金
9:00～9:15	体操・朝礼・ストレッチ				
9:15～10:30	【1 コマ】トレーニング（作業トレーニング/事務トレーニング）・スキルアッププログラム・就職活動ナビゲーション				
10:30～10:45	休憩				
10:45～12:00	【2 コマ】トレーニング（作業トレーニング/事務トレーニング）・スキルアッププログラム・就職活動ナビゲーション				
12:00～12:45	昼休憩				
12:45～13:45	【3 コマ】トレーニング（作業トレーニング/事務トレーニング）・スキルアッププログラム 講座				
13:45～13:55	休憩				
13:55～14:55	【3 コマ】トレーニング（作業トレーニング/事務トレーニング）・スキルアッププログラム・講座				
14:55	終礼・日誌記入				

◆ 作業トレーニング

主に事務作業や軽作業などの模擬作業を中心に実施し、一部企業等から受注した作業を行っています。様々な模擬作業を通して、ご自身の課題認識を行ったり、一定期間働くことのシミュレーションを実施するなどのトレーニングとして活用しています。また、ある程度働くイメージが付いた方に対しては、施設外作業や受注作業を行っていただき、実際の仕事により近い環境で経験を積んでいただいています。

<主な作業訓練>

【CD 検品】



【トレーディングカード仕分け】



【ビーズ組み合わせ】



【納品チェック】



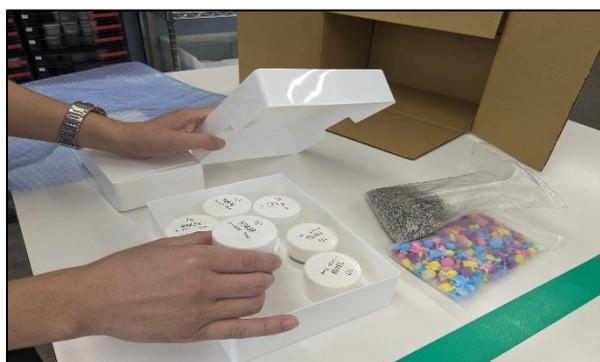
【ピッキング】



【メール仕分け】



【出荷】



【環境整備】（清掃）



◆ 講座

講座プログラムでは、ビジネスマナーやコミュニケーション等に関する講座を開催しています。各講座は全 12 回（一部 6 回）、3 か月で完結し、年間 4 回（4 月～6 月、7 月～9 月、10 月～12 月、1 月～3 月）開催しています。講座の受講は選択制で、利用されているご本人の希望や課題感に応じて職員と面談の上、決定しています。

また、2024 年度は就職活動に必要な基礎知識を知り、自分に合った応募条件を具体的にイメージできるよう「就活講座」を開催し、次年度以降も定期開催できるようにしました。

<ミラークよこすか 講座一覧>

講座名	開催頻度	講座のねらい	内容
ビジネスマナー スタートアップ	毎週開催	基礎的なビジネス マナーの習得	「挨拶」「身だしなみ」「話し方」「社会人としての心がまえ」など、ビジネスマナーの基本を講義と練習で学びます。
ビジネスマナー ステップアップ	毎週開催	ビジネスマナーを 自身の強みとする	職場でふさわしい言葉づかいや態度、飲み会でのマナーなど、場面に応じたビジネスマナーを講義と練習で学びます。
楽しく元気に働くための 生活講座	毎週開催	自立した生活送る ための力の習得	生活するためのお金や、働くための生活リズムなど、暮らしの中で必要になることをシミュレーション形式で一緒に考えます。
コミュニケーション	毎週開催	コミュニケーションに自信をつ け、良い人間関係を築くきっかけと する	相手と自分をどちらも大切に「アサーティブコミュニケーション」を中心に学びます。身近な場面などから「ちょうど良いコミュニケーション」とは何か考え、会話練習を行います。
クイズで学ぼう	毎週開催	思考力とコミュニ ケーション力の向 上	クイズ形式で文化や漢字の読み方、雑学などを時にはチームで相談して楽しみながら学びます。
ディスカッション	隔週開催	コミュニケーション力の向上	決められたテーマについてグループで話し合い、話し合ったことを発表します。
色々な仕事を知ろう	隔週開催	就職先のイメージ 作り	事務、販売、介護など、色々な仕事を動画などで学びます。実際に働いている人の1日のスケジュールや、仕事に必要な能力などを知り、就職活動に役立てます。
働く事例検討会	隔週開催	就職後のイメージ 作り	働く上で実際にあった成功事例や失敗事例を紹介し、その事例についてグループで話し合います。
健康な体をつくろう！	隔週開催	体を動かす習慣を 身に付ける	ウォーキングや室内でのトレーニングなどを行い、無理なく楽しく体を動かします。
スピーチ	隔週開催	人前で話すことに 自信を持つ	好きなテーマで1分間のショートスピーチを行います。人に良い印象を与える話し方や人の話を聞く態度を身に付けます。

<ミラークよこすか 就活講座（全5回）>

	内容
第1回	働く形
第2回	給与と社会保険
第3回	雇用契約と就業規則
第4回	面接の基礎知識
第5回	面接練習

◆ スキルアッププログラム

これまで当事業所を見学していただいた方の中には、長期間在宅生活を送られている方や、病状の悪化などにより離職を経験されている方などが多数おります。就職を希望し就労移行支援事業所の見学までは頑張ったものの、作業訓練などのプログラムを目の当たりにすると、不安が大きくなりそのまま連絡が取れなくなってしまう方も少なくありませんでした。このように、最初から仕事を意識した活動を行うと、負担が大きくなり精神的につらくなってしまふことはよくあります。スキルアッププログラムはそのようなケースに対応するための支援プログラムとして開始しました。プログラム内容は、文字を書く練習や文章の転記、自ら設定したテーマの研究など、複数用意しています。まずは取り組みやすいトレーニングから開始し、計画的に就職までの道筋を作ることで、スムーズに利用に繋がっていくこともこのプログラムの特徴です。用意されたトレーニングもただ行うだけにならないよう、少しずつ就職へ近づいていることを認識していただき、意欲向上につながるようにしています。作業能力は非常に高いものの、それ以外の事柄が就職への大きなハードルになっている方に対しても有効なプログラムとして、重要な位置づけとなっています。

<スキルアッププログラムの例>

トレーニング名	内容とねらい
美文字	業務日誌や履歴書をきれいに書けるようにする
自分研究	自分事を知り、面接でのアピール材料とする
テーマ研究	情報を自分で調べてまとめる力をつける
ミラーク新聞	構成や内容を自分で考え、時にはチームメイトと協力して作成する
News チェック	ニュースに興味を持ち、気になるニュースをまとめ、説明する
文章転記	見本通りに書き写すことで集中力をつける
その他	ご要望や状況に応じて個別に設定

◆ 事務トレーニング

事務系の職種での就職を目指す方へのトレーニングとして、実際に事業所内で使用する物品等の発注や郵送物の発送手続、その他にサンプルの道具を使用した事務作業を行うことで業務職のイメージを持ったり、適性確認をしたりすることに役立っています。

<事務トレーニングの例>

トレーニング名	内容
データ入力	リストや勤怠表などのデータを正しく入力する
書類補充	トレーニングで使用する書類の在庫を管理する
交通費チェック	申請された経路をもとに妥当性のある届け出かどうか確認する
在庫管理	備品の管理を行い、不足しているものは発注依頼をする
掲示物の作成	来客予定やスケジュールなど、お知らせを作成する
郵送物宛名書き	郵送物のあて名書きを行う
テプラシール作成	トレーニングで使用するテプラシールやマグネットを作成する
ラミネート加工	専用の機器を使用してラミネート加工をする

◆ 就職活動ナビゲーション

働く力を高めるためのトレーニングとは別に、就職活動に向けた準備を計画的に行っていくために設けられているプログラムです。このプログラムは、履歴書や面接の対策すること、働くための条件や待遇などについて考えていくことを主な内容とし、就職や就職活動を具体的に意識できるよう構成しています。

利用から就職までの期間は人により差があり、ミラークよこすかでも半年程度で就職する方から利用期限の2年近くで就職する方までいらっしゃいます。タイミングが合わず就職まで想定していたよりも時間がかかってしまった方からすると、自分は就職に近づいているのか不安になることや、就職活動に直接繋がるようなことをもっとやっていきたい等の思いが出てくる場合があります。そのような場合にも、就職活動ナビゲーションで自身の状況や就職について継続的に考える機会を設けることで、モチベーションの低下を防ぐ効果を期待しています。

<就職活動ナビゲーションの実施項目の一例>

項目名	内容
私の取扱説明書（トリセツ）を作ろう①	自分のことを整理、確認することでこれから取り組むことを考えます
働く基礎知識講座①	働くことそのものや雇用条件等を知り、就職について現実的に考えます
私の取扱説明書（トリセツ）を作ろう②	面接や働き始めた時に配慮して欲しいこと等を伝えられるようにしていきます
働く基礎知識講座②	給与、社会保険等についての知識を身に付けます
面接練習	繰り返し面接練習を行います
履歴書作成	必要に応じてサポートしてもらいながら履歴書を作成します
面接練習（実践編）	実際に応募する求人情報を元に面接練習を行います

◆ スーツデイ

年に数回、企業見学等の外出プログラムを実施しています。当日は基本的にスーツ着用で出かけるため、ミラークよこすかでは「スーツデイ」と呼んでいます。障害者雇用をしている企業にご協力いただき、働く上での心構えや、社員に求めることなどについての講義、利用者からの質問への回答などを行っていただいています。利用者の皆さんにも、実際の職場に行くことで、働くイメージ作りや就職する職種を考える際の参考にしていただいています。

毎年度 4 社ほどご協力をいただき実施しております。

<見学にご協力いただいた企業・法人>

日産自動車株式会社様

荏原アーネスト株式会社様

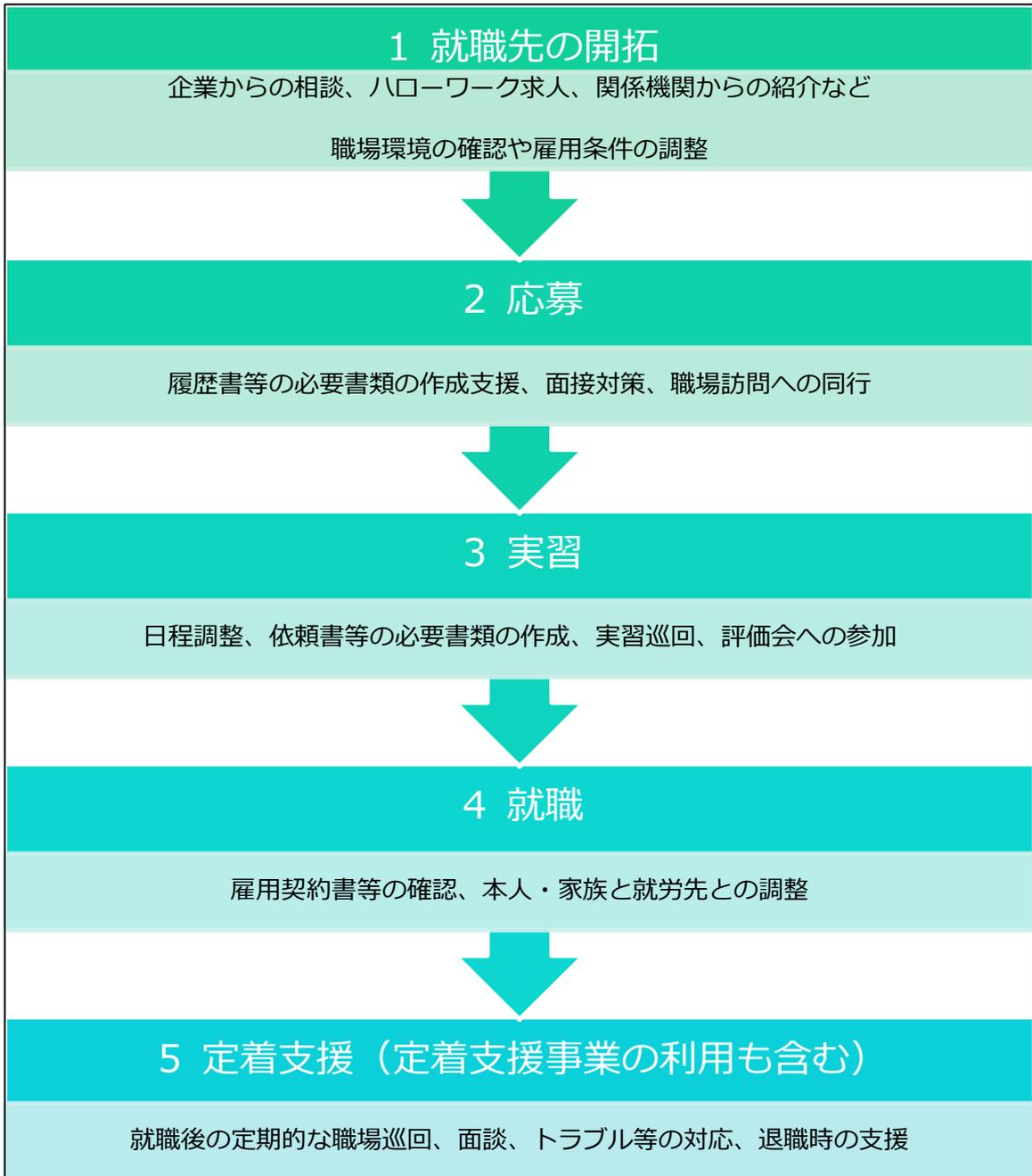
日総ぴゅあ株式会社様

株式会社崎陽軒様

① 就労支援

◆ ミラークよこすかの就労支援の流れ

ミラークよこすかの就労支援は、以下の流れで実施しています。就職した利用者は、ミラークよこすかを退所しますが、就職後の支援もミラークよこすかが継続的に行っています。



◆ 2024 年度の就労実績

2024 年度は 10 名の利用者が就職され、年間を通しては想定通りの就職者を輩出することができました。

就職後は、6 か月が経過するまではミラークよこすかの就労移行支援事業内で定着支援を行い、6 か月経過後については、ミラークよこすかで実施している就労定着支援事業の利用等により継続的に支援を行います。また、就労定着支援事業の利用期間終了後についても、ミラークよこすかが独自の支援を行います。

表 3.2024 年度の就労実績一覧

	就労先業種	仕事内容	就労移行支援事業利用期間
1	食品	清掃・軽作業	23 か月
2	食品	軽作業	8 か月
3	食品	調理補助	22 か月
4	医療	清掃・軽作業	16 か月
5	食品	事務	17 か月
6	人材派遣	事務	15 か月
7	福祉	清掃	23 か月
8	教育	事務補助	29 か月
9	食品	菓子製造	13 か月
10	製造	軽作業	21 か月

(2) 就労定着支援事業

「一般就労へ移行した障害者について、就労に伴う生活面の課題に対し、就労の継続を図るために企業・自宅等への訪問や障害者の来所により必要な連絡調整や指導・助言等を行うサービス」として、2018年4月に就労定着支援事業が創設されました。同事業は、就労後6か月経過後から3年6か月までの間を対象とした障害福祉サービスです（就労から6か月未満は就労移行支援事業の定着支援期間と位置付けられています）。

ミラークよこすかは、2018年7月より同事業を開始し、2025年3月末までの期間に計73名の方にご利用いただいています。ミラークよこすかでは、就労定着支援事業を実施するとともに、サービス期間が終了した方に対しても、継続して職場定着の支援を行っています。

表4.月別の契約者数と支援者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
契約者	21名	21名	23名	23名	23名	21名	18名	18名	17名	17名	19名	21名
支援者	21名	20名	22名	23名	22名	21名	18名	18名	17名	17名	18名	21名

※支援者：ご契約者の内、該当月に支援を受けられた方
支援は、企業訪問や面談などの対面支援に加え、テレビ電話等を使用した支援も合わせて行っています。

【ミラくる（就労者対象イベント）】

「ミラくる」は、ミラークよこすかが開催している就労者を対象とした交流会です。他の就労者と仕事の話やミラークよこすか利用中の思い出話しをしたり、就労支援担当以外の職員と就職状況について話をしたりする交流の場となっています。年間で3回ほど開催しています。また、これまではミラークよこすかのスペースで開催していましたが、就労者の増加に伴い今後参加者が増えでも対応できるよう広さのある外部の貸会場を使用して開催をしました。

【離職の状況】

ミラークよこすかを利用しながら就職された方に対しては、期限を定めず定着支援を行っています。可能な限り長く働き続けられるよう支援をしていますが、中には様々な理由により離職される方もいらっしゃいます。2024年度は2名が離職されました。ミラークよこすかでは、退職の支援やその後の生活に関するご相談もお受けしています。離職後、通所施設利用の手続きや再就職の支援も必要に応じて行っています。

表5.過去5年間の就労者の状況（2024年度末時点）

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
年度内就職者数	6名	10名	11名	5名	10名
離職者数 (2024年度末時点)	(0名)	(2名)	(2名)	(0名)	(0名)
在職者 (2024年度末時点)	6名	8名	9名	5名	10名
在職率	100%	80%	81.8%	100%	100%

3. 2025 年度事業目標

部目標
①利用者満足の向上を目指し、支援や接遇マナー等の行動指針を示します ②各事業を取り巻く市場の動向を調査し、収支バランスを踏まえた運営や数値目標の設定に繋がります ③就労定着支援の在り方を整理します ④次年度に向けて就労選択支援事業等の方向性を決定します ⑤効率的な事業運営に向け、業務の標準化や平準化に取り組みます
事業所目標
＜就労移行支援事業＞定員:20名 ① 新規就労者数 8 名/年を輩出します。 ② 新規利用者数 10 名/年を獲得します。 ③ 平均利用者数 13 名/日を目指します。 ④ 横須賀、三浦、横浜市南部地域での就労先開拓に注力し、通勤時間に不安を持つ方の就労実現を目指します。
＜就労定着支援事業＞ ① サービス提供実施率 90%/年を目指します。 ② 就労定着率 90%以上(基本報酬算定基準による)を目指します。 ③ イベントを 3 回/年開催します。 ④ サービス終了後を見据え地域の関係機関との連携強化を図ります。
＜運営全体＞ ① 部署内の職員研修を 10 回/年実施します。 ② 業務上災害ゼロを目指します。 ③ パンフレットや季刊誌を活用し、地域の関係機関等へ情報発信を行います。

